

# ふくおかの経済

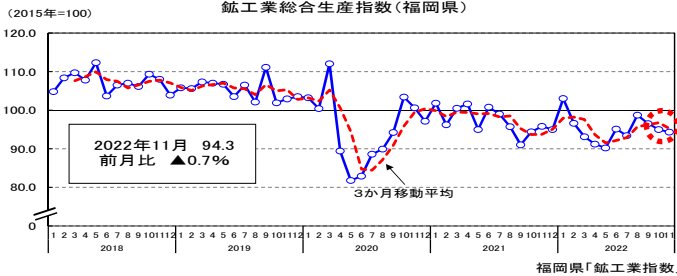
令和5年1月号



## 生産

持ち直しの動きに足踏みがみられる。

11月の生産指数は、化学工業などの低下により3か月連続で前月を下回りました。

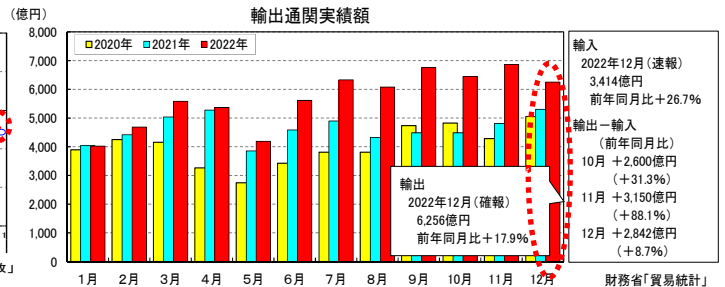


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

## 貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

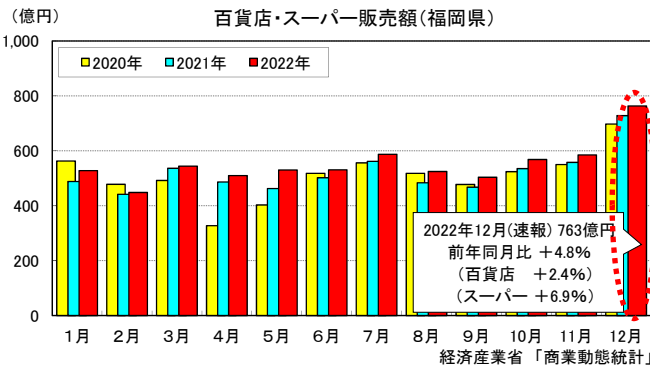
12月の輸出額は、前年同月比+17.9%、輸入額は同+26.7%といずれも前年同月を上回りました。



## 消費

持ち直している。

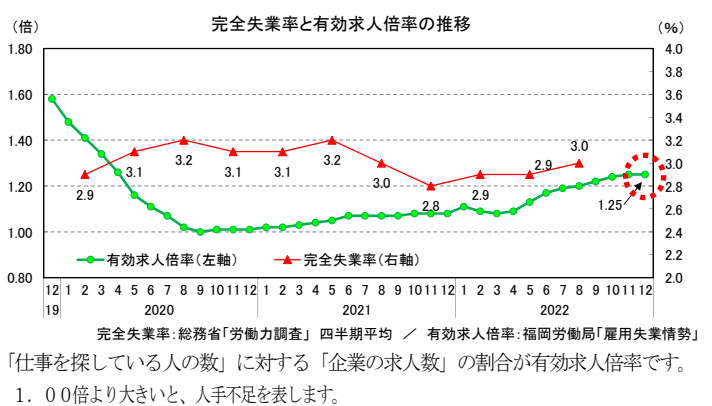
12月の百貨店・スーパー販売額は、15か月連続で前年同月を上回りました。



## 雇用

雇用情勢は、改善しているものの、一部に厳しさがみられる。

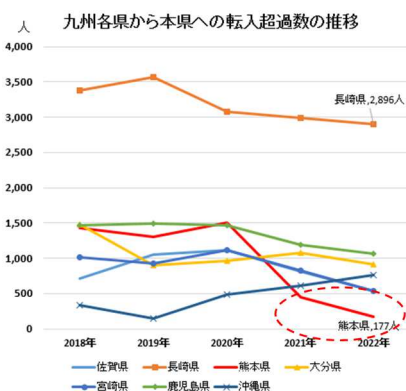
12月の有効求人倍率は1.25倍で、前月と同倍となりました。



## 今月のトピック 減少する本県への転入超過~変わりつつある人の動き~

- 本県は九州・沖縄で唯一、転入者数が転出者数を上回る転入超過が続いていますが、その幅は縮小しつつあります。特に2021年以降、熊本県からの流入が急減しています(図表1)。
- 熊本県は2022年も転出超過(▲377人)ではあるものの、2020年(▲3,393人)の1/9程度と急速に改善しています。九州各県とのやり取りでは、長崎県や宮崎県からの流入が増加しており、これらの県から本県への流入が減っていることから、転入先として熊本県を選ぶ人が増加していることが推測されます(図表2)。
- 本県への熊本県からの転入超過数を性別、年代別に見たところ、男性では全年齢合計で、2022年に転出超過に転じており、年代別では20歳から29歳での流出が目立っています(図表3)。女性は転入超過を維持しているものの、2022年は2020年から半減しています。
- 熊本県内では、台湾の半導体受託製造企業であるTSMCの工場建設が進められていますが、今後、工場労働者等の採用が本格化すれば、熊本県への人の動きが一層、活発化する可能性があります。

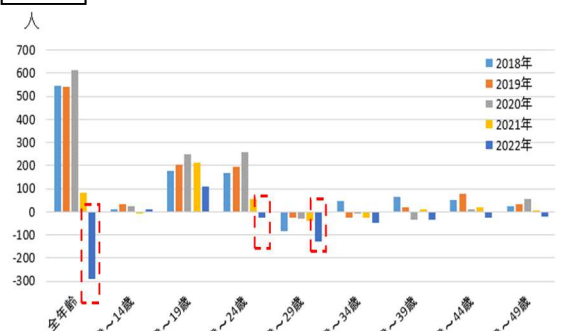
図表1 減少する本県への転入超過



図表2 熊本県への転入超過数の推移

	2018	2019	2020	2021	2022
全国	▲3,575	▲3,900	▲3,393	▲650	▲377
福岡県	▲1,424	▲1,304	▲1,503	▲452	▲177
佐賀県	44	▲3	▲2	60	5
長崎県	159	271	134	230	311
大分県	257	81	43	114	158
宮崎県	169	98	293	215	296
鹿児島県	177	11	▲72	211	107
沖縄県	2	▲19	▲16	24	44

図表3 本県への転入超過数(対熊本県)【男性】



図表1, 2, 3出所: 総務省「住民基本台帳人口移動報告」に基づき作成